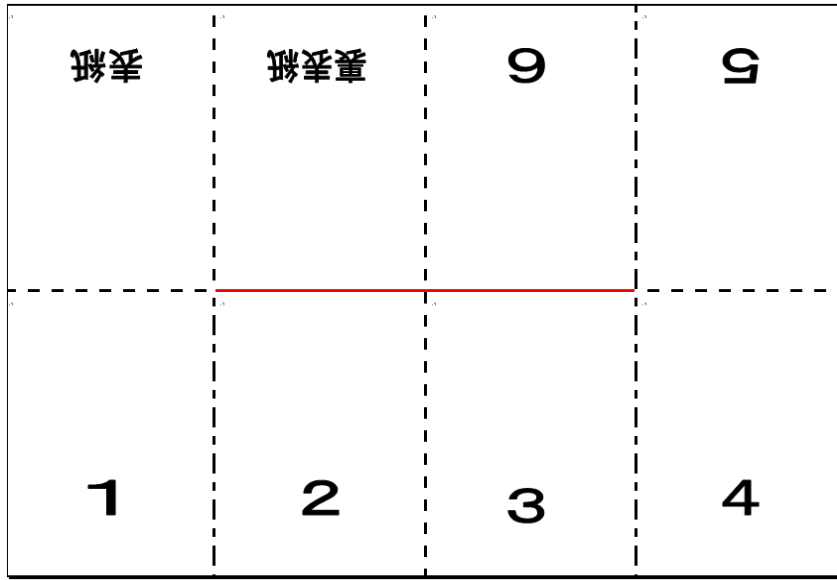


ワードを使って、本の形の歌集を作る

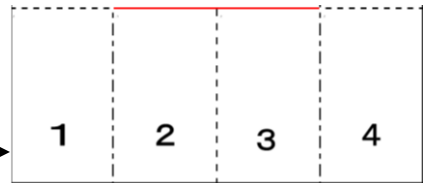
A3サイズの紙を折りたたんで、本の形にして愛唱歌集を作りましょう。

- 1. ページ設定** 「用紙サイズA3」「印刷の向き横」「余白を上下左右0cm」にする。
(「余白が印刷できない領域に設定されているので修正するか」のメッセージが出るが無視をクリックする)
- 2. A3の用紙を8分割する** 表の挿入(2×4)をして、行の高さをそろえ8分割が均等になるようにする。下図のように分割する。



※本の作り方 表紙、裏表紙の間に6ページの本ができる。

- ① 赤い線のところを線に沿って切る。
- ② 半部に折る。
- ③ [- - - - - 山折 - . - . - . - 谷折]
で線のとおり折り、本にする。



3. 各ページに 歌詞を書く

- ① 上半分は歌詞を反転させる。

※テキストボックスでは反転できないのでワードアートを使って反転した。
(フォント：SM明朝 サイズ12)

<p>みかんの花が咲く丘</p> <p>みかんの花が 咲いている 想い出の道 丘の道 はるかに見える 青い海 お船が遠く かすんでる</p> <p>黒い煙を はきながら お船は どこへ行くのでしょうか 波に揺られて 鳥の影 汽笛がボウと 鳴りました</p> <p>いつか来た丘 母さんと 一緒にながめた あの島よ 今日もひとりで 見ていると 優しい母さん 思われる</p> <p style="text-align: center;">1</p>	<p>心の窓にともし灯を</p> <p>いじわる木枯らし 咲きつける 古いセーター ぼろシューズ 泣けてくるよな 夜だけど 頬っぺをよせて ともしましょう 心の窓に ともし灯を ホラ笑ってばが うかんでくのでしょ</p> <p>真珠にかがやく飾り窓 うつる美しい シンデレラ ポツクにやなんにも ないけれど かじかむ指で ともしましょう 心の窓に ともし灯を ホラ日曜 咲きたくなるでしょ</p> <p style="text-align: center;">2</p>	<p>北上夜曲</p> <p>においやすい 白百合の 濡れているよな あのひとみ 想い出すのは 想い出すのは 北上河原の 月の夜</p> <p>宵のともし火 ともしころ ころほのかな 初恋を 想い出すのは 想い出すのは 北上河原の せせらぎよ</p> <p>銀河の流れ 仰ぎつつ 星を数えて 妻と僕 想い出すのは 想い出すのは 北上河原の 星の夜</p> <p style="text-align: center;">3</p>	<p>あざみの歌</p> <p>山には山の 想いあり 海には海の 妻しみや まして心の 花園に 咲きしあざみの 花ならば</p> <p>高嶺の百合の それよりも 秘めたる夢も ひとすじに くれない燃ゆる その姿 あざみに深き わが想い</p> <p>いとしき花よ 汝はあざみ 星を数えて 妻と僕 汝はあざみ さだめの径は はてなくも 香れよせて わが胸に</p> <p style="text-align: center;">4</p>

※ワードアートは字数が限られるので、長い歌詞の場合は、1番、2番を別々に書く。

(例：「心の窓にともしびを」ほかの歌詞の字数程度であれば同ページに収まる)


※見開きページになるところは、罫線を消して、3,4ページのように、歌詞を書き込める。

4. 印刷する A4対応のプリンターは拡大/縮小印刷をする(用紙サイズ A3、出力用紙 A4)。A4用紙で印刷後、コピー機等でA3サイズに拡大する。

※A4に歌詞を書き込んでもよいが、A3に拡大したときの文字の大きさが確認できないので、A3にした。

5. 本にする 「本の作り方」を参考にして作る。

参考1 下図のように歌詞を書き、上半分を切って反転させて、作ってもよい。

<p>銀色の道</p> <p>遠い遠い はるかな道は 冬の風が 吹いてるが 谷間の春は 花が咲いてる ひとりひとり 今日もひとり 銀色のはるかな道</p> <p>ひとりひとり はるかな道は つらいだろうが がんばろう 苦しい坂も 止まれば下がる 長く続く 明日も続く 銀色のはるかな道</p> <p>5</p>	<p>空よ</p> <p>空よ 水色の空よ 雲の上に 夢をのせて 空よ 私の心よ 思い出すの 幼い日を</p> <p>故郷の 野山で 初めて 芽生えた あどけない 二人の 小さな愛 空よ 教えてほしいの あの娘は 今どこにいるの</p> <p>6</p>	<p>四季のうた</p> <p>春を愛する人は 心清き人 スミレの花のような はくの友だち</p> <p>夏を愛する人は 心強き人 碧を渡るハイネのような はくの父親</p> <p>秋を愛する人は 心深き人 愛を語るハイネのような はくの恋人</p> <p>冬を愛する人は 心広き人 想像をとかす大地のような はくの母親</p> <p>7</p>	<p>わたしの愛唱歌</p>  <p>ナルク茂原</p>	<p>綴じ代が不要であり、折込だけで本にするので、谷折りする線の位置に歌詞があっても大丈夫です。</p>								
<p>みかんの花が咲く丘</p> <p>みかんの花が 咲いている 思い出の道 丘の道 はるかに見える 青い海 お船が遠く かすんでる</p> <p>黒い煙を はきながら お船は どこへ行くのでしょ 波に揺られて 船の影 汽笛がボウと 鳴りました</p> <p>いつか来た丘 母さんと 一緒になめた あの島よ 今日もひとりで 見ていると 懐かしい娘さん 思われる</p> <p>1</p>	<p>心の窓にともし灯を</p> <p>いじわる本棚らし 吹きつける 古いセーター ぼろシューズ 泣けてくるよな 夜だりど 寝つをよせて ともしましょう 心の窓に ともし灯を ボク笑くばが うかんんでるでしょ</p> <p>真珠にかがやく飾り窓 うつつ貴しい シンデレラ ボクにゃなんにも ないけれど かじかむ指で ともしましょう 心の窓に ともし灯を ボク口笛 吹きたくなるでしょ</p> <p>2</p>	<p>北上夜曲</p> <p>においやさい 白百合の 濡れているよな あのひとみ 思い出すのは 思い出すのは 北上河原の 月の夜</p> <p>音のともし火 ともしころ ころほのかな 朝露を 思い出すのは 思い出すのは 北上河原の せせらぎよ</p> <p>銀河の城れ 舞ぞつつ 星を散らして 君と僕 思い出すのは 思い出すのは 北上河原の 星の夜</p> <p>3</p>	<p>あざみの歌</p> <p>山には山の 愁いあり 海には海の 悲しみや まして心の 花園に 咲きしあざみの 花ならば</p> <p>高嶺の百合の それよりも 秘めたる夢も ひとすじに くれない戀ゆる その姿 あざみに添き わが思い</p> <p>いとしき花よ 泣はあざみ こころの花よ 泣はあざみ さだかの聲は 泣はあざみ 香れよせめて わが胸に</p>		<table border="1"> <tr> <td data-bbox="861 990 1013 1191">5</td> <td data-bbox="1013 990 1165 1191">6</td> <td data-bbox="1165 990 1324 1191">裏表紙</td> <td data-bbox="1324 990 1492 1191">表紙</td> </tr> <tr> <td data-bbox="861 1191 1013 1384">1</td> <td data-bbox="1013 1191 1165 1384">2</td> <td data-bbox="1165 1191 1324 1384">3</td> <td data-bbox="1324 1191 1492 1384">4</td> </tr> </table>	5	6	裏表紙	表紙	1	2	3
5	6	裏表紙	表紙									
1	2	3	4									

参考2 画像などは反転できるので、本の形にしやすい。

 <p>コシユク</p>	 <p>紫の花</p>	 <p>白の花</p>	 <p>紫の花</p>
<p>おみなえし</p> 	<p>ふじばかま</p> 	<p>ききょう</p>  <p>朝顔(あさがお)は「朝顔」ではなく、「桔梗」であるとの説が定説。</p>	<p>秋の七草</p> <p>山上権良が万葉集の歌で選定し、今に至っている。</p> <p>秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数うれば 七種の花</p> <p>芽の花 早花 葛花 嬰交の花</p> <p>姫部志 また藤袴 朝顔の花</p> <p>山上権良</p>